

第1回 御菌橋デザイン検討会

会議議事録

【開催概要】

日 時：平成21年 1月23日(金)
10時00分～12時00分
場 所：上賀茂神社 社務所（勅使殿）

【委員】

家村 浩和（京都大学名誉教授）（座長）
川崎 雅史（京都大学教授）
上賀茂学区，柊野学区，大宮学区，紫竹学区，御菌橋801商店街，上賀茂神社

【御菌橋の歴史について】

御菌橋は、昔より葵祭りの時に勅使を通すためだけに架けられた簡素な橋で、台風などの度に流されていた。最古のものでは1654年の古地図に描かれているが、その後描かれていなかったりするなど、常に架かっている橋ではなかったことがうかがえる。

明治時代中ごろに大規模な架け替え工事が行なわれ、その後は「御菌橋」として定着する。現在の御菌橋は昭和10年の大水害の後、昭和12年に架設された。このときは美術家や大学教授などの専門家によるデザインの審査会が設けられ、御菌橋は上賀茂神社との調和を考慮して擬宝珠付の高欄が採用された。

【意見の概要】

- ・ 「御菌」とはお供え物のための畑を言う。まさに神社とともに歴史を歩んできた橋。神社，橋，地域一帯となった橋を期待している。
- ・ 御菌橋は祭典の橋として考えられており，霊柩車は渡らない。
- ・ 上賀茂神社の入口の橋のふさわしい「丹塗り」の橋がよい。
- ・ 渡るほどに上賀茂神社に近づき，気持ちの高まる橋であるべきだ。
- ・ 高欄等の材料はコンクリート等ではなく，本物の木や石の使用が望ましい。
- ・ 歴史ある橋を兩岸の整備とともに架け替えた例として，宇治橋がある。
- ・ 中・長期的な視点での計画が必要である。
- ・ 橋の機能性として兩岸の道路を含め，交通形態がシンプルな方がよい。今の状況は危険で動線がわかりにくい。
- ・ 地権者等をはじめ地域の住民の協力が重要である。
- ・ 御菌橋東側の都市計画道路を再度確認したい。